

18歳選挙権に関する意識調査

福井県選挙管理委員会

福井県選挙管理委員会では、選挙権年齢の18歳以上への引下げに伴い、間もなく有権者となる高校生を対象に「18歳選挙権に関する意識調査」を実施しました。

以下に調査結果を掲載します。

1 調査目的

県内高校生の政治や選挙に関する意識を調査し、投票参加に向けた啓発および主権者教育の充実に活用する。

2 調査対象

福井県選挙管理委員会が、選挙に関する出前講座を実施した県内45校※、約1万5千人の生徒

※ 県立高校28校、私立高校6校、特別支援学校（高等部）10校、福井工業高等専門学校

3 調査時期 平成27年9月～平成28年3月

4 調査内容 別紙調査票（全14問）

5 回答者数 14,673人

（回答者の属性）

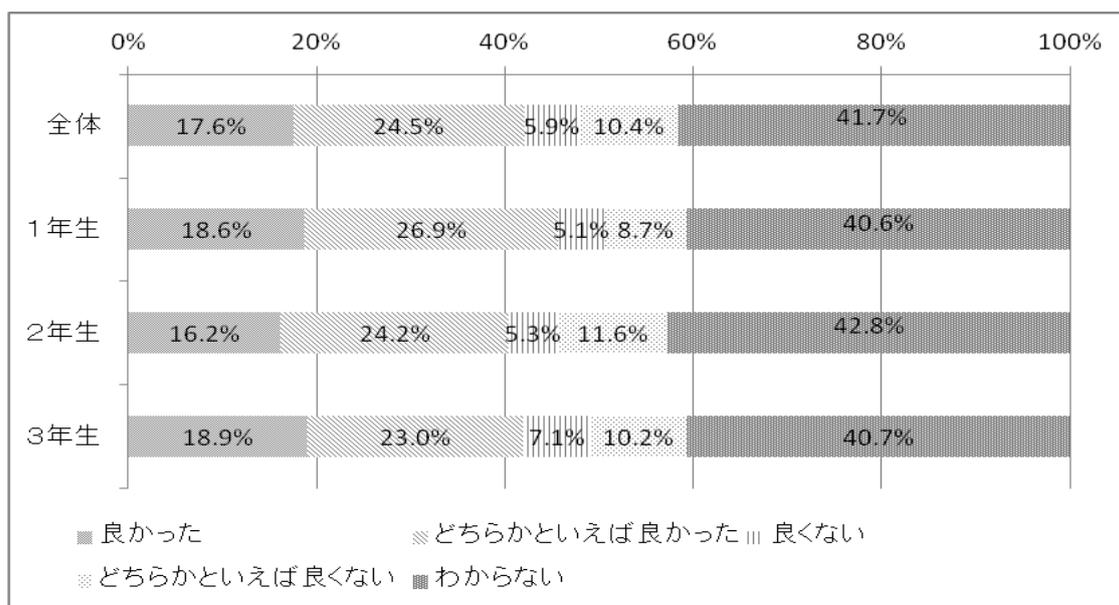
	1年生	2年生	3年生	4年生	不明	合計
男性	1,708	3,243	2,599	25	100	7,675
女性	1,758	2,927	2,221	21	71	6,998
合計	3,466	6,170	4,820	46	171	14,673

6 調査結果

（1）「選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ良かったと思いますか」

全体では17.6%の人が「良かった」と回答しており、「どちらかといえば良かった」まで含めると4割超（42.1%）の人が好意的に受け止めている。「よかった層」を学年別で見ると、1年生の選択率が最も高く45.5%となっている。

一方、全体で5.9%の人が「良くない」と回答しており、「どちらかといえば良くない」まで含めると16.3%の人が否定的に捉えている。「よくない層」を学年別で見ると、3年生の選択率が最も高く17.3%となっている。また、どの学年も4割超の人が「わからない」と答えている。



※表中の「全体」は定時制高校4年生や学年未回答の生徒を含む。(以下全て)

(2) 「なぜ良かったと思いますか」(複数回答)

18歳以上に引き下げられて「良かった」または「どちらかといえば良かった」と回答した人に答えてもらった。全体の賛成理由として選択率が最も高かったのは「若者の意見をより反映させることができるから」(50.0%)、次いで「若いうちから政治について考えた方がよいから」(49.1%)、「若者の政治への関心を高めるために有効と思うから」(40.7%)となっている。

「若者の意見をより・・・」は1年生の選択率が、「若いうちから・・・」は2年生の選択率が若干高くなっている。一人あたりの選択数は全体で1.9、学年別の特別な傾向は見られない。

	若者の意見をより反映させることができるから	若いうちから政治について考えた方がよいから	若者の政治への関心を高めるために有効と思うから	政治家が若者向けの政策を掲げるようになるから	ほとんどの国は18歳から選挙権を与えているから	10代でも社会人として納税している人もいるから	その他	わからない	一人当たり選択数
全体	50.0	49.1	40.7	17.9	14.9	9.0	2.8	1.7	1.9
1年生	55.2	47.0	41.8	18.7	16.5	10.3	3.8	1.8	2.0
2年生	47.8	50.0	39.4	16.9	14.0	8.2	2.3	1.7	1.8
3年生	49.0	49.6	41.6	18.5	14.8	9.2	2.4	1.2	1.9

(3) 「なぜ良くないと思いますか」(複数回答)

18歳以上に引き下げられて「良くない」または「どちらかといえば良くない」と回答した人に答えてもらった。全体の反対理由として選択率が最も高かったのは「18歳の時点では世の中のことが理解できていないから」(54.5%)で、次いで「面白半分、または適当に投票する人が増えるから」(42.8%)、「情報に左右されやすい年代に権利を与え

るのは危険だから」(27.3%)となっている。

これらの反対理由はいずれも2年生の選択率が高くなっている。

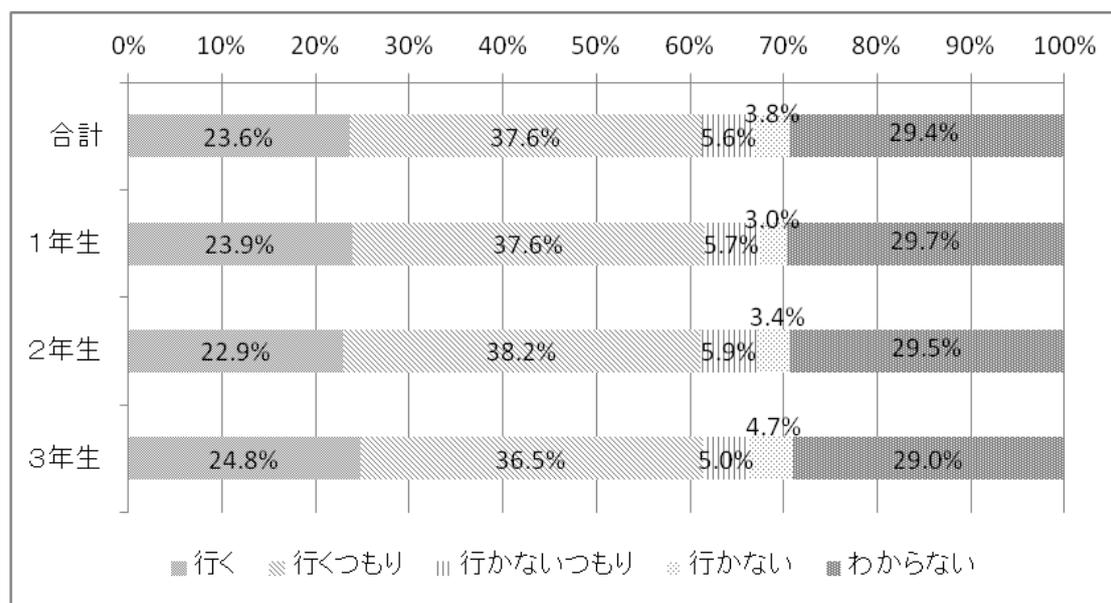
一人あたりの選択数は全体で1.8%、上記(2)の「良かった」より若干少ない。学年別の特別な傾向は見られない。

	面白半分や適当に投票する人が増えるから	まずは20歳代の投票率を上げよう	18歳の時点では世の中のことが理解できていないから	受験勉強やアルバイトなどで忙しく投票に行けないから	情報に左右されやすい年代に権利を与えるのは危険だから	18歳以上でも若い人の意見は政治に反映されないから	その他	わからない	一人当たり選択数
全体	42.8	20.0	54.5	11.1	27.3	17.4	7.8	2.1	1.8
1年生	42.3	21.7	48.6	13.3	26.7	18.3	6.3	1.7	1.8
2年生	46.2	21.1	57.6	11.8	28.5	16.6	7.1	1.9	1.9
3年生	38.8	18.2	54.8	9.3	25.8	18.2	9.4	2.4	1.8

(4) 「18歳になったら(18歳以上の人)は最初の選挙で投票に行きますか」

全体で選択率が最も高かったのは「行くつもり」(37.6%)、次いで「わからない」(29.4%)、「行く」(23.6%)となっている。

「行く」または「行くつもり」と答えた人は全体で61.2%、「行かないつもり」または「行かない」と答えた人は全体で9.4%で、学年別の特別な傾向は見られない。



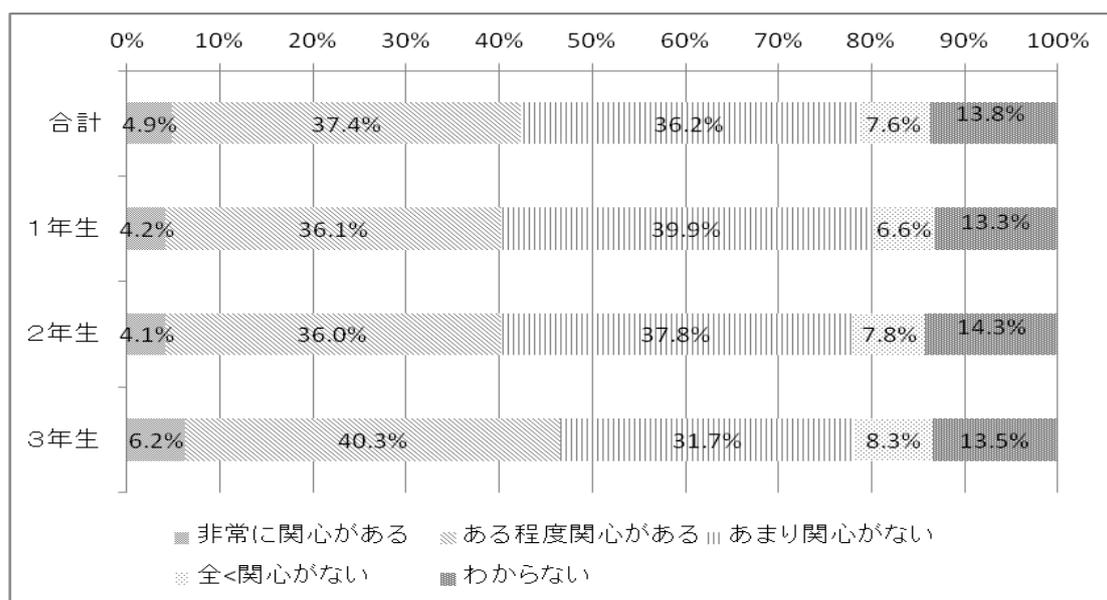
(5) 「国や地方の政治にどの程度関心がありますか」

「非常に関心がある」または「ある程度関心がある」と答えた人は全体で42.3%、「あまり関心がない」または「全く関心がない」と答えた人は全体で43.8%となった。

「関心がある層(非常に+ある程度)」を学年別で見ると、3年生が46.5%、次いで1年生が40.3%、2年生が40.1%となっている。

さらに「関心がない層(あまり+全く)」を学年別で見ると、1年生が46.5%、次いで2年生が45.6%、3年生が40.0%となっている。

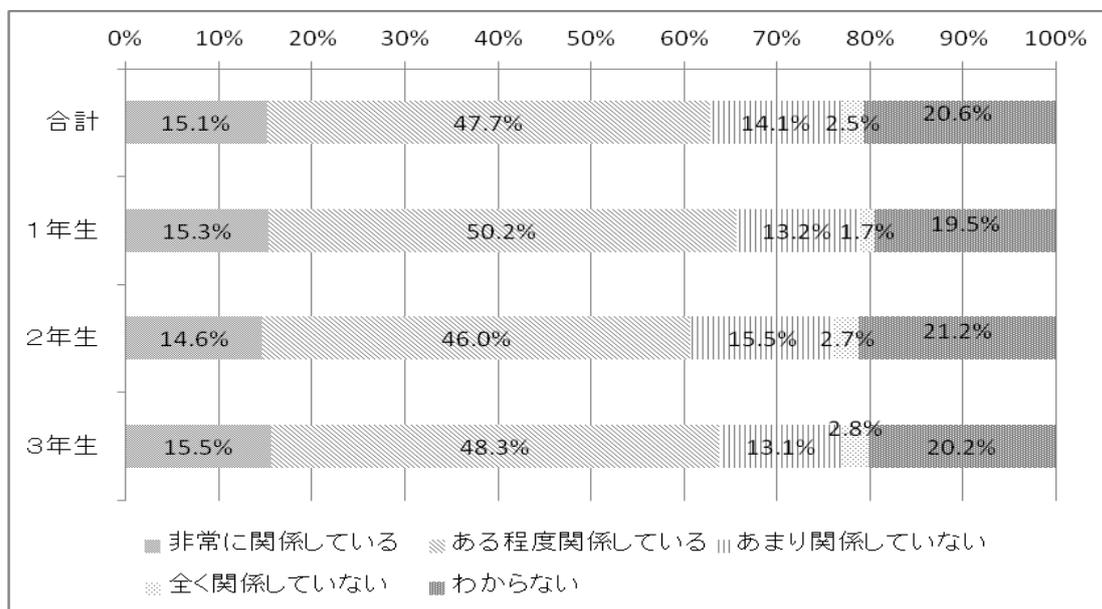
「全く関心がない」は3年生に比較的多く、「わからない」は2年生に多い。



(6) 「自分自身の生活と政治とはどの程度関係していると思いますか」

「関係している(非常に+ある程度)」と考える人は全体で62.8%、「関係していない(あまり+全く)」と考える人は全体で16.6%となった。

「関係している(非常に+ある程度)」と考える人を学年別でみると1年生が65.5%と最も多く、次いで3年生の63.8%、2年生の60.6%が続く。「全く関係していない」は3年生、「わからない」は2年生の選択率が若干高い。

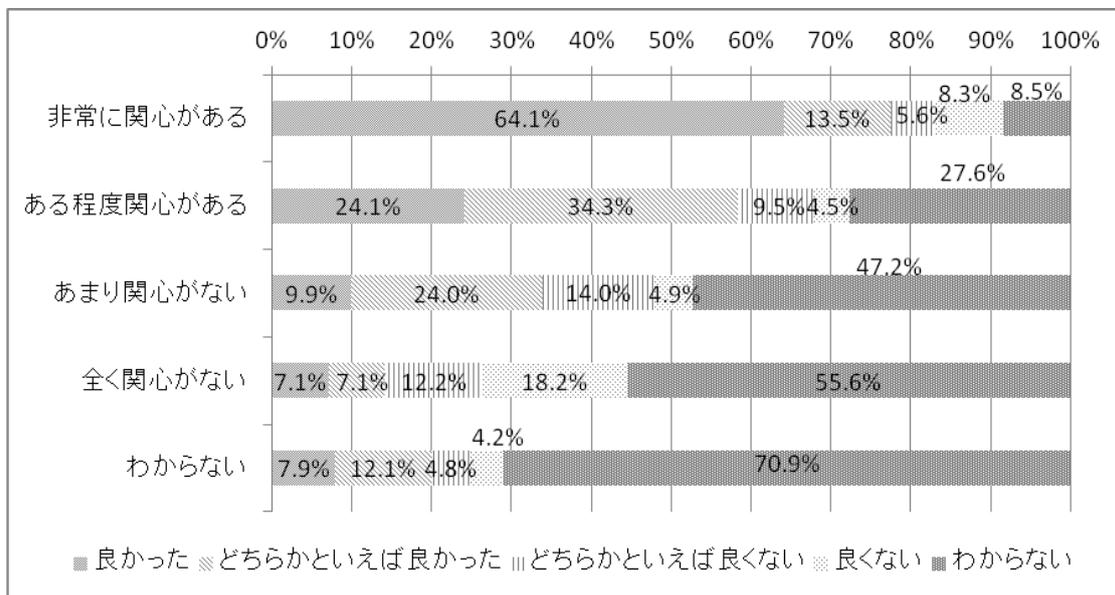


(7) 「国や地方の政治にどの程度関心がありますか」と「選挙権年齢が18歳以上に引き下げられて良かったと思いますか」とのクロス集計

国や地方の政治に「非常に興味がある」人は「良かった」が64.1%と最も高く、「どちらかといえば良かった」(13.5%)まで含めると77.6%の人が、選挙権年齢の引き下げを

肯定的に受け止めている。以下、「よかった層」は政治に「ある程度関心がある」人で58.4%、「あまり関心がない」人で33.9%、「全く関心がない」人で14.2%と段階的に減少していく。また、「良くない」は政治に「全く関心がない」人からの選択率が高い(18.2%)。

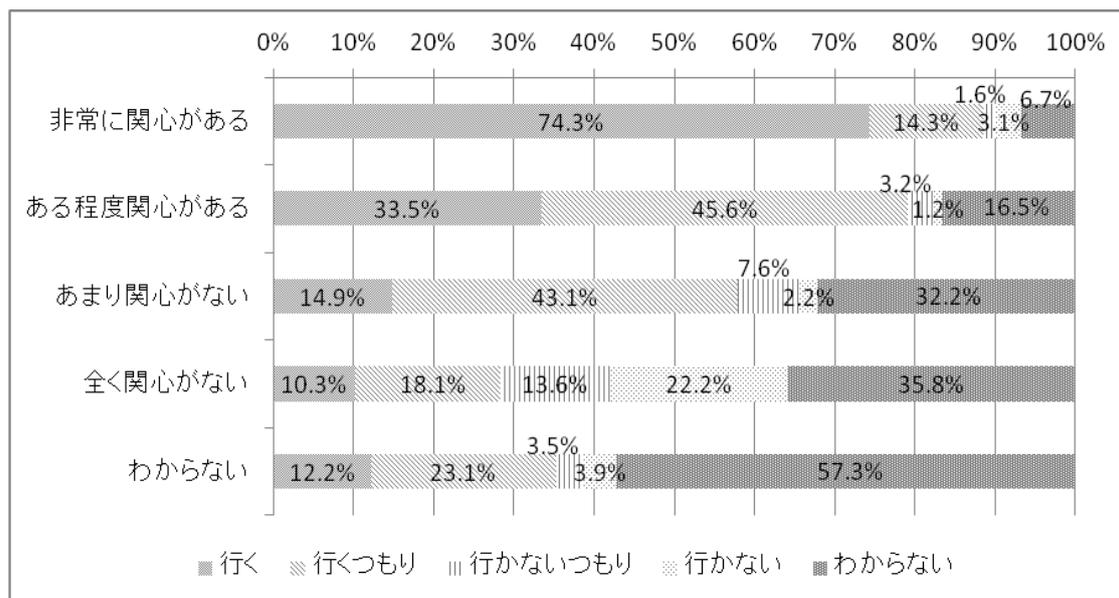
政治に関心があるかないか「わからない」人は、選挙権年齢の引き下げについても7割(70.9%)が「わからない」としている。



(8) 「国や地方の政治にどの程度関心がありますか」と「18歳になったら(18歳以上の人は最初の選挙で)投票に行きますか」とのクロス集計

国や地方の政治に「非常に興味がある」人の74.3%は「投票に行く」としており、「行くつもり」まで含めると88.6%になる。

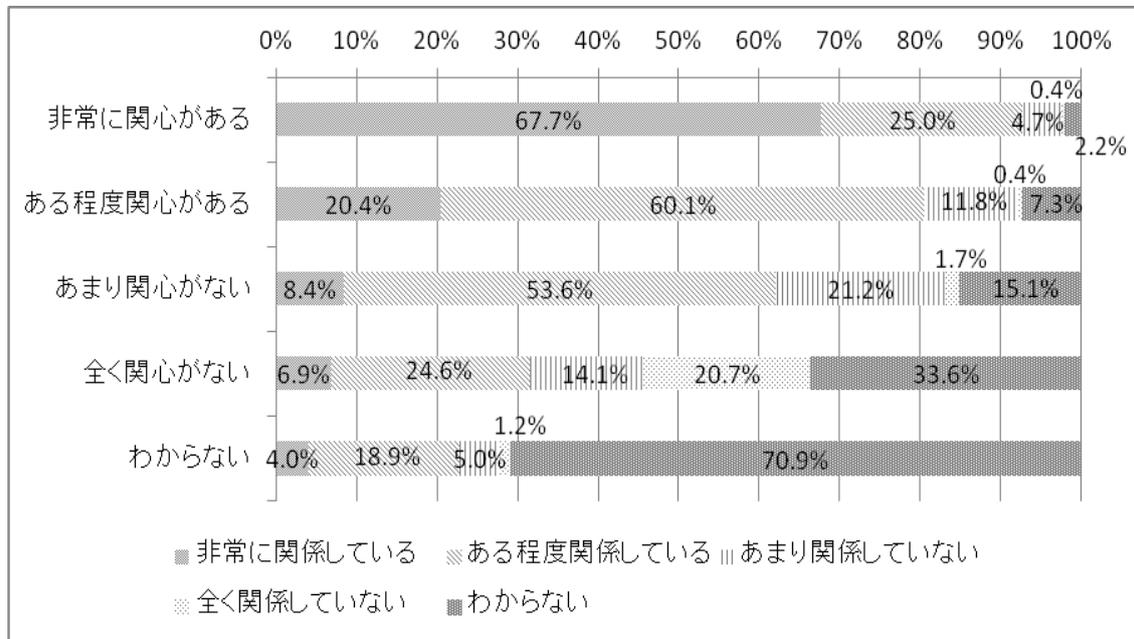
以降、投票参加への意欲は政治への関心が少なくなるにつれて段階的に減少していく。政治に関心があるかないか「わからない人」は、投票参加についても6割弱(57.3%)が「わからない」としている。



(9) 「国や地方の政治にどの程度関心がありますか」と「自分自身の生活と政治とはどの程度関係していると思いますか」とのクロス集計

国や地方の政治に「非常に関心がある」人の67.7%は「生活と政治は非常に関係している」と考えており、「ある程度関係している」まで含めると92.7%になる。

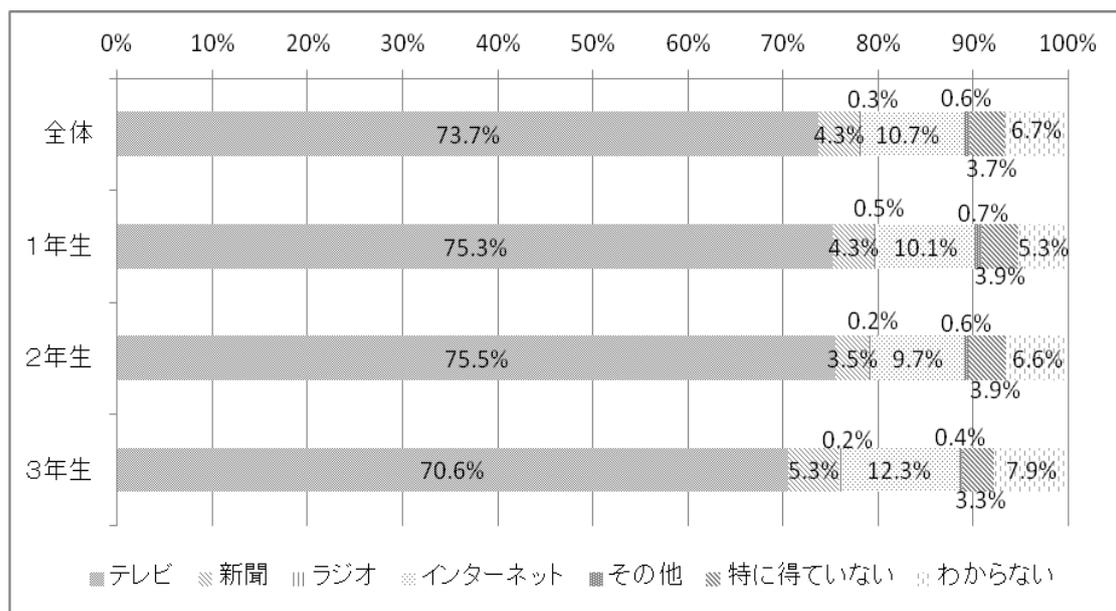
以降、生活と政治の関係性を肯定する人は政治への関心が少なくなるにつれて段階的に減少していく。政治に関心があるかないか「わからない」人は、生活と政治との関わりについても7割以上(70.9%)が「わからない」としている。



(10) 「政治や経済に関するニュースを主に何から得ていますか」

全体では「テレビ」が73.7%と最も多く、ついで「インターネット」が10.7%、「新聞」が4.3%と続く。

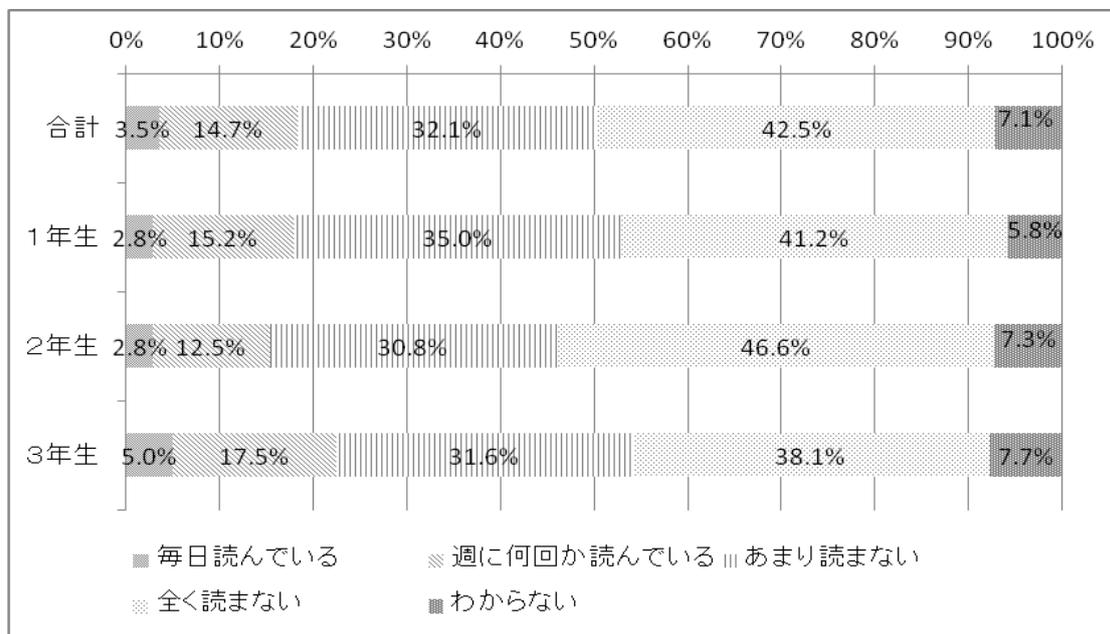
「テレビ」は2年生の選択率が、「新聞」と「インターネット」の選択率は3年生の選択率が若干高くなっている。



(11) 「新聞の政治面をどのくらい読みますか」

全体では「全く読まない」が42.5%で最も多く、次いで「あまり読まない」が32.1%、「週に何回か読んでいる」が14.7%と続く。

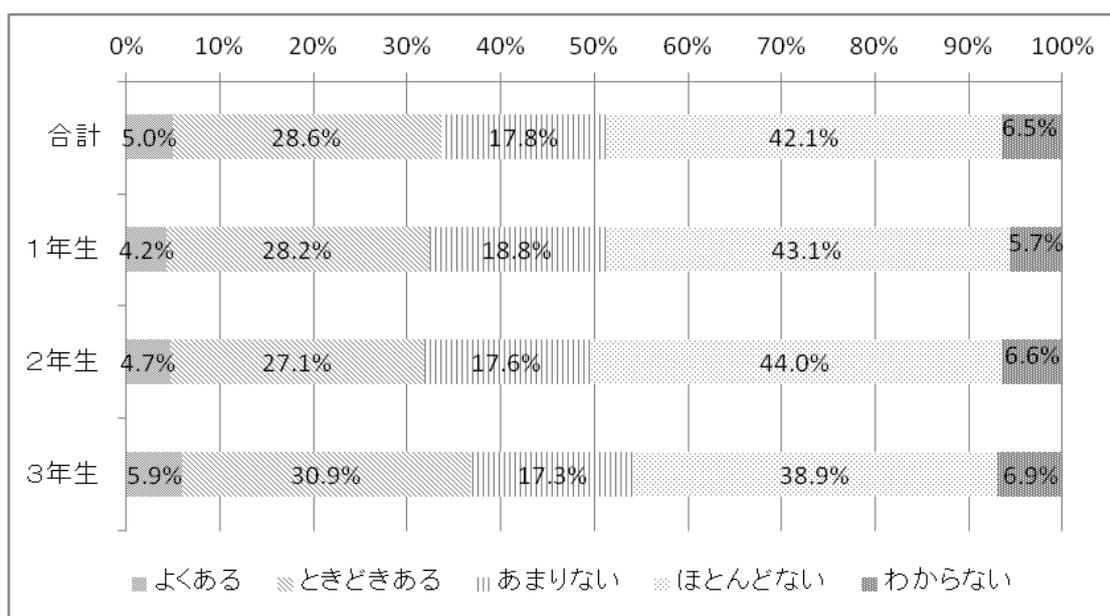
「毎日読んでいる」と「週に何回か読んでいる」は3年生の選択率が、「あまり読まない」は1年生の選択率が、「全く読まない」は2年生の選択率がそれぞれ高くなっている。



(12) 「家族と政治の話をすることがありますか」

全体では「ほとんどない」が42.1%で最も多く、次いで「ときどきある」が28.6%、「あまりない」が17.8%と続く。

「よくある」または「ときどきある」を選択した割合は3年生が最も高く36.8%、次いで1年生が32.4%、2年生が31.8%となっている。



(13) 「家族の中で誰と政治の話をしますか」(複数回答)

全体では「母」の選択率が62.0%と最も高い。次いで父が58.3%、兄弟・姉妹が12.6%、祖母11.3%、祖父11.2%の順となっている。

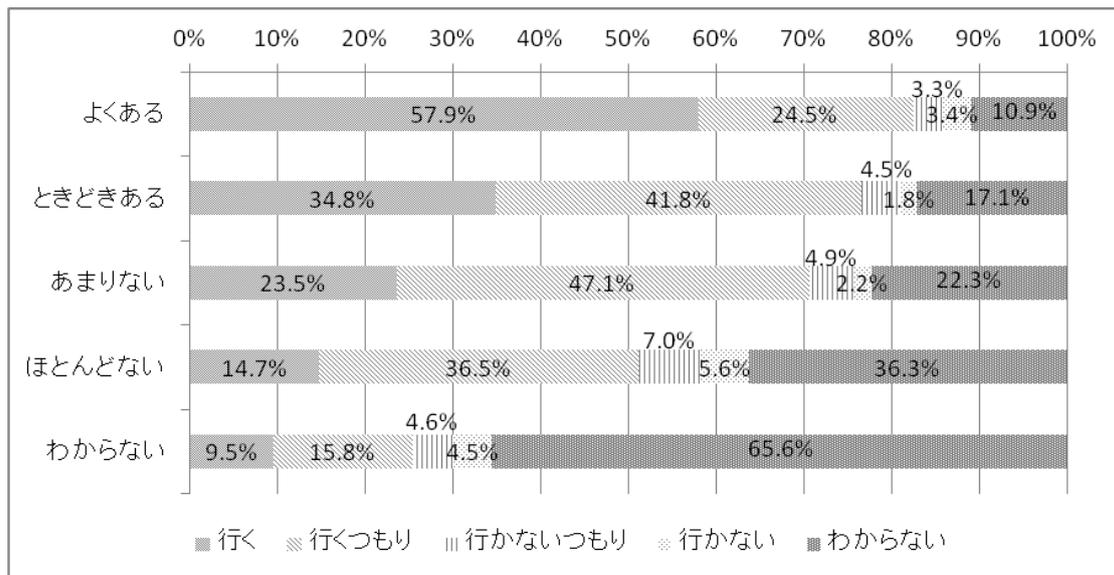
「母」は2年生の選択率が、そのほかは1年生の選択率が若干高くなっている。

	父	母	祖父	祖母	兄弟・姉妹	その他
全体	58.3	62.0	11.2	11.3	12.6	1.2
1年生	59.3	62.7	13.7	11.8	14.1	1.2
2年生	57.5	63.4	10.5	11.7	11.3	1.4
3年生	58.7	59.7	10.4	10.5	13.1	0.8

(14) 「家族と政治の話をすることがありますか」と「18歳になったら(18歳以上の人は最初の選挙で)投票に行きますか」とのクロス集計

家族と政治の話をする機会が「よくある」人の57.9%は「投票に行く」としており、「行くつもり」まで含めると82.4%になる。

以降、家族と政治の話をする機会が少なくなるほど、投票参加への意欲は段階的に減少していく。家族と政治の話をするか「わからない人」は、投票参加についても65.6%が「わからない」としている。



(15) 「高校生が政治や選挙に関心を持つためには、何をすればよいと思いますか」(複数回答)

全体では「学校で政治や選挙に関する新聞記事を使った授業を受ける」の選択率が33.5%と最も高い。次いで「学校で政治や選挙に関するディベートや話し合いを行う」が20.1%、「学校で選挙管理委員会の職員などから選挙の話を聞いたり、模擬投票を体験する」が15.2%、「開会中の議会を傍聴しに行く」が13.8%と続く。

「新聞記事を使った授業」は3年生の選択率が35.6%と最も高く、「ディベートや話し合いを行う」、「選挙の話や模擬投票体験など」は1年生の選択率がそれぞれ高かった。

	新聞記事 を使った 授業を受 ける	ディベ ートや話し 合いを行 う	選挙の話 や模擬投 票体験な ど	受付事務 体験や投 票啓発行 事に参加	開会中の 議会を傍 聴しに行 く	高校生議 会を開催 する	政党の関 係者から の政治の 話	一人当た り選択数
全体	33.5	20.1	15.2	8.8	13.8	6.4	12.2	1.4
1年生	32.9	22.9	16.9	10.8	16.1	7.5	12.0	1.4
2年生	32.5	18.4	14.7	8.4	13.6	5.8	12.1	1.3
3年生	35.6	20.4	14.6	8.0	12.6	6.4	12.4	1.4